

# 令和7年度埼玉県学力・学習状況調査報告書

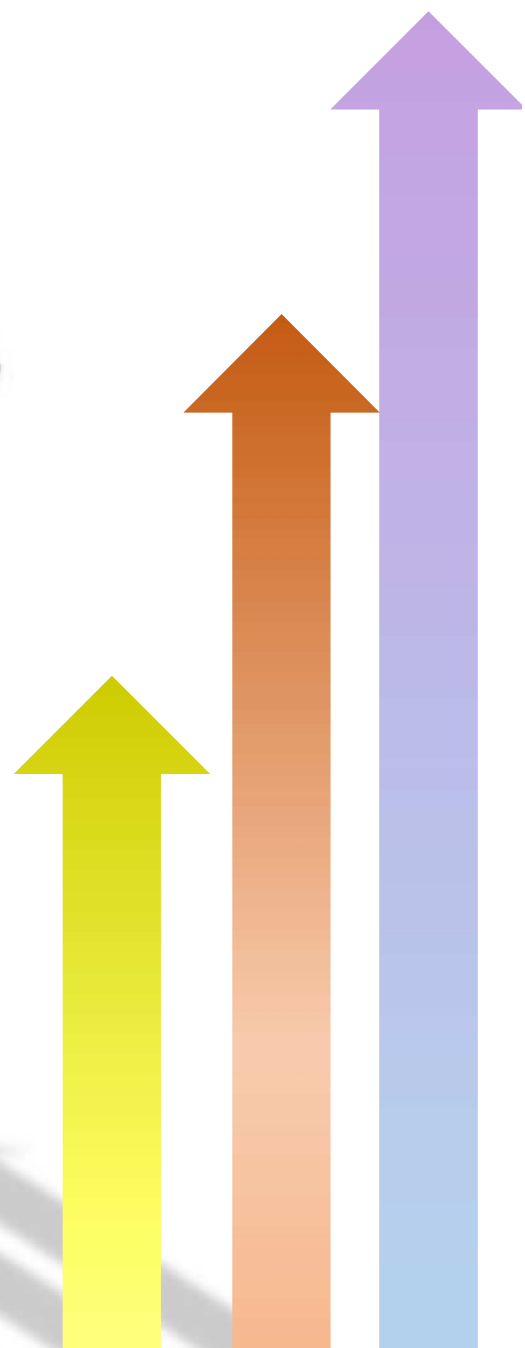
〔令和7年4、5月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～



埼玉県マスコット「コバトン」

令和7年12月  
埼玉県教育委員会



## は じ め に

埼玉県学力・学習状況調査は、「学習したことがしっかりと身に付いているか」という従来の調査の視点に、「児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という新たな視点を加えた自治体初の調査として始まり、本年度11回目を迎えました。

令和6年度からは全校C B Tでの実施となり、解答時間と見直し時間といった結果（以下、解答ログと略記）が加わったことで、よりきめ細かな指導が可能になりました。

本報告書では、調査の詳細や校内での帳票の活用方法の例、これまでの実施状況から見てきたこと、調査結果の分析による指導のポイントなどを、分かりやすくまとめています。

今回の分析では、児童生徒質問調査から主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善につながる内容が、解答ログの分析からは見直しを行う児童生徒は正答率が高いといった傾向などが分かってきました。各学校においては、児童生徒の学力の伸びと合わせて非認知能力や学習方略などの結果から一人一人のよさを見つけ認めていただくとともに、解答ログから問題に粘り強く挑戦している姿などを読み取り、日々の指導に御活用ください。

本報告書では、そのほかにも各種分析結果を紹介しています。教職員の経験や勘だけに頼らない、エビデンスに基づいた指導・支援のため、校内研修など授業改善に向けた話し合いの機会などで積極的に御活用ください。

また県では、今年度新たに、学校の分析支援の一つとして、県内327校をオンラインでつなぎ、結果帳票を活用して分析を行う「複数校一斉型ハイブリッド研修」を実施しました。今後も引き続き、各校児童生徒一人一人の学力と学習意欲を確実に伸ばす教育を引き続き推進してまいります。

今後とも、御理解・御協力をお願いいたします。

令和7年12月

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長

山 川 喜 葉

# 令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

## 【 県教育委員会の取組 】

### これまでの成果

- ・「主体的・対話的で深い学び」は学習方略、非認知能力の向上を通じて学力を向上させる相関があること
- ・学級経営が、主体的・対話的で深い学びの実現や学習方略、非認知能力の向上に重要であること



- ・「よいところを」認められた児童生徒は自己効力感が向上し、どの学年・教科でも学力が高い傾向があること
- ・解答ログからきめ細かな支援・指導に向けた授業改善につなげていくこと



### 埼玉県学力・学習状況調査の実施・結果返却

### 総合的な支援

- ・全ての小・中学校等、児童生徒への支援
- ・各市町村・学校における取組の共有を促進
- ・調査データの分析結果の普及
- ・効果的な取組を県内で広く共有

#### 主な取組

- ・学力向上推進協議会の実施
- ・県学調結果の分析や効果的な活用のための支援
- ・優れた指導技術の共有・普及  
(映像・アクションリサーチ)

### 重点的な支援

- ・特に支援が必要な市町村・学校への対応
- ・特に学習のつまずきが見られる学年・教科等への対応
- ・各市町村・学校の実態に応じた課題に対する支援

#### 主な取組

- ・県学調結果に基づく市町村や学校に対する支援
- ・「未来を生き抜く人材育成」学力保障スクラム事業
- ・学力向上研究校指定事業
- ・学力向上プロジェクト教員の配置

### 結果分析・活用の支援

- ・複数校一斉型ハイブリッド研修
- ・分析支援プログラム
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査等

#### 調査から見えてくる！

- ・学力・学習の伸び
- ・非認知能力・学習方略の状況
- ・学習に対する意欲・態度の状況

## 【 市町村教育委員会・学校の取組 】

- ・調査データに基づき、児童生徒の実態を多角的・多面的に分析・把握
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善PDCAサイクルの確実な実施
- ・校内研修等で学力を伸ばした取組の共有



### 児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす

## 【 児童生徒・家庭の取組 】

- ・自分自身の成長(伸び)を実感し、自己効力感を高めながら次の学びへの挑戦(児童生徒)
- ・「よいところ」「努力が必要なところ」を把握し、一緒に具体的な目標の設定(保護者)

# 目 次

はじめに

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

## 第1章 調査の概要

1 調査の概要	2
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象	2
(3) 調査の内容・方法	2
(4) 調査実施日等	3
2 CBT化と解答ログ	3

## 第2章 調査結果の概要

1 「学力の伸び」の状況（令和2年度～令和7年度）	5
(1) 学力のレベルの経年変化（令和2年度～令和7年度の6年間）	5
(2) 学力が伸びた児童生徒の割合	5
2 調査からみられた傾向	7
(1) 授業の見通しと学びの自覚	7
(2) 話合いと考えの変容・深まり	8
(3) CBT化による解答ログを用いた分析	8
(4) 「授業の内容がわかる」と「自己効力感」	9
(5) 「主体的・対話的で深い学び」と「学校生活へのやる気」	11
【参考資料】学習方略や非認知能力の質問事項	13

## 第3章 調査結果の活用

1 個人結果票、結果帳票の活用	16
(1) 個人結果票（教科に関する調査結果）の見方	16
(2) 個人結果票（質問調査の結果～規律ある態度の達成目標～）の見方	17
(3) 家庭での活用の仕方	17
(4) 学級担任の活用の仕方	18
(5) 学級担任・教科担当者の帳票結果の分析・活用（例）	19
(6) 学校担当者の帳票結果の分析・活用（例）	20
(7) 市町村教育委員会担当者の帳票結果の分析・活用（例）	22
(8) 帳票48（解答ログの帳票）の活用について	23
2 授業改善への活用	24
(1) 教科別授業改善の視点	24
(2) 学習指導のポイント	26

## 第4章 特徴的な取組の紹介

1 川口市立芝西小学校の取組	55
2 東松山市立松山第一小学校の取組	57
3 神川町立丹荘小学校の取組	59
4 蓮田市立蓮田中央小学校の取組	61
5 朝霞市立朝霞第五中学校の取組	63
6 鶴ヶ島市立富士見中学校の取組	65
7 寄居町立男衾中学校の取組	67
8 宮代町立百間中学校の取組	69

## 第5章 その他

1	学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計	・ ・ ・ ・ ・	7 2
2	調査に関するQ & A	・ ・ ・ ・ ・	7 6
3	「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査	・ ・ ・ ・ ・	7 9
4	学級経営リーフレット～よりよい学級経営を目指して～	・ ・ ・ ・ ・	8 2